

陸自のシステム通信・サイバーの現状と展望

陸上幕僚監部装備計画部通信電子課長

一等陸佐 弥頭 陽子



信友会の皆様におかれましては、平素より陸幕通信電子課に対するご理解とご支援を賜り心より御礼申しあげます。この度、陸自のシステム通信・サイバーの現状と展望について寄稿の機会をいただきましたので、概要について紹介させていただきます。

令和4年12月、国際社会は戦後最大の試験の時を迎え、新たな危機の時代に突入しているとの基本認識の下、我が国の安全保障政策の主要文書、所謂三文書が策定され、国家安全保障戦略において、防衛力の抜本的強化がうたわれました。

防衛力整備計画では「防衛力の抜本的強化」に資する自衛隊の能力等に関する7つの主要事業として①スタンド・オフ防衛能力、②統合防空ミサイル防衛能力、③無人アセット防衛能力、④領域横断作戦能力、⑤指揮統制・情報関連機能、⑥機動展開能力・国民保護、⑦持続性・強韌性が示されました。

システム通信は7つの分野全てに関わりが強いですが、中でも指揮統制・情報関連機能において、2027年までにネットワークの抗たん性を強化しつつ、人口知能(AI)等を活用した意思決定を迅速化すること、認知領域を含め、戦略・戦術の両面で情報を取得・分析する能力を強化することを目標としています。関連する取り組みとして、各自衛隊の一元的な指揮統制を可能とする防衛省クラウド(仮称)基盤の整備に向け、各自衛隊クラウドのシステム設計・製造に着手、より迅速かつ的確な情報・統制のため、陸自クロース系クラウドにはAIを活用するための基盤を整備していきます。

サイバー関連は、領域における能力強化のため、省としてサイバーセキュリティ確保のための体制整備、セキュリティ強化、教育・研究に取組んでいます。体制整備としては、自衛隊サイバー防衛隊をはじめ、陸自のサイバー専門部隊の態勢を拡充するほか、高度なスキルを有する民

間人材の活用等に取り組んでいます。セキュリティ強化と統的にリスクを分析・評価、必要なセキュリティ対策を行うリスク管理枠組み(RMF)を導入しています。また、各自衛隊共通の教育として2019年度から陸自通信学校(当時)においてサイバーセキュリティの教育を実施していましたが、2024年3月に陸自システム通信・サイバー学校に改編され、サイバー要員育成の教育基盤が拡充されました。

今後の展望として令和7年7月に策定された「次世代情報通信戦略」について紹介します。本戦略は急速に進展する通信技術の適切な利活用が死活的に重要ななか、I省内関連施策の一貫性の確保と部内横断的な検討の促進、II防衛省の考え方を示し、民間技術の早期装備化・開発促進により、防衛力強化と経済力強化の好循環を創出することを目的としています。また、現行の防衛情報通信基盤(D-II)やシステム等の問題点は、iネットワークとシステムが分かれて計画・整備され、運用ニーズ変化に応じた効率的な情報通信リソースの割り当てが困難、ii各軍種の作戦ニーズに沿ってサイロ化されたシステム・アセットが構築され、組織横断的なデータ運用・状況把握等に制約があることと述べ、全てのセンサーやシーケンサーをつないで得られる膨大なデータ通信及び処理を可能とするため、ネットワークとシステムを統合的に構築し、一括したデザインの下、基盤的なプラットフォームとしての新たな防衛情報通信基盤(仮称)を整備するとされています。また、この実現のため光電融合技術等の情報処理技術、量子関連技術、AI技術などの進展も踏まえ、民間で開発中の最先端技術を含む次世代情報通信技術を積極的に活用すると述べています。

この様な観点から、今後はより組織横断的な基盤が構築されるとともに、最先端の技術をより早く取り入れるため、官民の連携も更に促進されていくことが予想されます。

信友会の皆様におかれましては、より一層のご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、信友会の益々のご発展を祈念致しまして結びの言葉と致します。

陸上自衛隊のシステム・通信電子関連予算の現況

陸上幕僚監部装備計画部通信電子課総括班長

一 はじめに

(一) わが国を含む国際社会は、今、ロシアによるウクライナ侵攻が示すように、深刻な挑戦を受け新たな危機に突入しております。このような安全保障環境を踏まえ、防衛省・自衛隊においては宇宙・サイバー・電磁波領域を含む全ての領域における能力を有機的に融合する多次元統合防衛力を抜本的に強化するため、スタンドオフ防衛能力、無人アセット防衛能力、領域横断作戦能力及び指揮統制・情報関連機能等の7つの重視する主要事業分野に基づき防衛力整備を推進しております。

(二) 整備計画期間内の防衛力抜本的強化実現に向けた3年目となる令和7年度においては、衛星コンステレーションの構築等によるスタンドオフ防衛能力の強化などの重視分野に基づく取り組みを推進するため、必要かつ十分な予算を確保しており、歳出べースにおいては防衛省として8兆4、748億円、そのうち陸自としては2兆4、954億円を計上しております。

(三) おわりに

通信電子課は、システム・通信電子関連事業について可動率向上を含めまして全力で推進しておりますが、防衛生産・技術基盤の強化及び装備移転の推進にも積極的に取り組んでおりますので、信友会会員各位におかれましては、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

二 陸自のシステム・通信電子関連事業に係る令和7年度予算取得状況

(一) 強靭な陸上自衛隊を創造するため、陸上防衛力の抜本的な強化を推進しているなかにおいて、陸自のシステム・通信電子関連事業についても無人アセットの取得や領域横断作戦に必要な能力構築等の様々な取り組を実施しております。

(二) 無人アセットは、部隊の構想や戦い方を根本的に一変させるゲームエンジニアとなり得ることからも早期に整備することが必要です。陸自においては、情報収集・警戒監視・偵察・ターゲティング(IST)を含む各種用途の無人アセットの取得を推進しておりますが、令和7年度においては合成開口レーダを搭載したUAV(中域用)機能向上型を2式取得するための予算として42億円を取得するとともに、指揮官の状況判断及び火力発揮等に寄与するためのUAV(狭域用)173式及びUAV(狭域用)汎用型383式を取得するための予算として合



陸上自衛隊システム通信・サイバー学校(イメージ)

計58億円を取得しています。

非対称的な優勢を確保していくため領域横断作戦能力の強化についても抜本的な能力強化を推進しておりますが、陸自における電磁波作戦能力強化のため、ネットワーク電子戦システム(NEWS)を1式取得するための88億円及び令和6年度より着手している24式対空電子戦装置を更に2式整備するために必要な64億円を取得しております。

また、高度化・巧妙化するサイバー攻撃に対する防衛省・自衛隊のサイバーセキュリティ態勢の強化のため、陸上自衛隊通信学校をシステム通信・サイバー学校に改編したところであります。かかる教育所要に対応するための施設整備に必要な132億円を取得しております。

一等陸佐 辻 洋平

会員だより

「定年退官後の一年を振り返って」

会員 飯塚 友嗣



信友会の諸先輩方におかれましては、いつもご指導・ご鞭撻頂きありがとうございます。

この度信友会機関誌に寄稿させて頂くと言う大変光栄な機会を頂き、もの凄く緊張しておりますが、拙いながら退官からの一年間を振り返って執筆させて頂きます。

私は令和6年7月に退官し、8月から三菱電機株式会社にて奉職することとなりました。初めて民間企業で働くにあたり、環境や仕事に慣れる事ができるか不安でした。しかし、諸先輩方、同僚等に暖かく迎えて頂き、人の暖かさを感じながらお仕事ができる事に感謝の念を日々実感しております。

退官してからは、二つの事を意識して日々を過ごす様に心掛けています。

ありきたりではありますが、健康と趣味の充実です。

健康についてですが、自衛官を退官したことで運動する機会がすっかり減りました。元気で楽しい日々を送るためにも健康管理に気を使わねば、と自戒しております。

現役の時ですが、平成26年から令和2年までの約8年間、子供達が入っていた少年野球チームのスタッフをしておりました。体力的にはとても大変だったのですが、地域の方々と共に活動する機会を得られたことや、子供達と一緒に過ごす時間を持てたこと、また最後の一年は監督をさせて頂き、非常に貴重な体験をさせて頂いたと思っています。

それまでは余り興味の無かった野球ですが、実際にやってみると大変面白く、プロ野球、高校野球などを見るようになりました。特に甲子園では毎試合、球児たちやスタッフ、関係者の方々の努力や情熱に思いを馳せて、どの試合も「よく頑張った」と感動してしまいます。

今は現役の時程運動する事はできなくなつてしましました



が、健康な生活を送るためにも野球に限らず少しでも運動して、元気な日々を過ごせればと思っています。

二つ目は趣味の充実です。若い頃から読書やドライブがとても好きでした。子供達が小さいうちは、家族みんなでキャンプや海水浴に行ったりしていました。しかし子供達も大きくなり、一緒に出掛けの機会もめっきり減りましたので、その分、どの様に過ごそうかと思いまし

た。

折角なのでと思い、家族に心配を掛け様に気を付けながら、月に一度程度ですが音楽を聴きながらのんびりドライブを楽しんだりしたりする様になりました。

また、夜などに静かに読書する時間がとても好きなので、本を読む時間もこれまでより多くなり、自分自身が楽しむ時間が増えたことを実感しています。

これからも楽しく元気に過ごすためにも、楽しく過ごせる時間を大切にしたいと思っています。

最後になりますが、現役の時から人と会話をする時は努めて笑顔を心掛けてきましたが、ある機会に『顔施(がんせ)』と言う言葉があることを知りました。仏教の言葉との事で、意味は「いつも笑顔で接することで、周りの人たちに元気や明るさを与える」という意味だそうです。

SNS等で、人との繋がりがネット越しになりがちな時代ではありますが、これからも様々な方々と直接お会いする機会には、心からの『笑顔』を心掛けていこうと思います。

拙い文章となり恐縮ですが、今後とも諸先輩方、関係される多くの方々のご健勝を祈念するとともに、引き続きのご指導ご鞭撻、何卒宜しくお願ひ致します。

またこの様な機会を頂き、本誌関係者の皆様方におかれましては本当にありがとうございました。

第六十一回 総会・合同歓送迎会

一 全般

「第六十一回総会・合同歓送迎会」を、令和七年二月二十四日(月)「グランドヒル市ヶ谷・珊瑚」において開催しました。

二 総会・講演会

グランドヒル市ヶ谷・珊瑚において、総会を実施し、職種名称変更等一部会則改正等の承認を得ました。

その後、講演会として弥頭陸幕通信電子課長より、「通信電子関連装備の現状と取組み」と題した講演をいたぎ、陸幕通信電子課としての取組等について、ご紹介いただきました。



河本会長挨拶



第61回信友会総会の開始



陸幕通信電子課長による講演



総会参加会員の状況



合同歓送迎会の様子
(システム通信・サイバー学校長ほか)



来賓代表
(教育訓練研究本部長)
ご祝辞



合同歓送迎会会場の状況



現職発起人代表
(システム通信・サイバー
学校長) ご挨拶



合同歓送迎会の様子
(手前: 80歳以上・歴代会長テーブル)



信友会新入会者紹介



信友会発起人代表(信友会長) 挨拶

三 合同歓送迎会

同歓送迎会は、趣旨を、引き続き「現職とOBとの交流の場」とし、内容としては、従来の内容を踏襲しつつも、会と現職のより合同による式次第・司会要領とし、「グランドヒル市ヶ谷・珊瑚」の大会場にて、会員百三名、現役百二十五名、計二百二十八名の多数の参加者を得て、ゆとりある空間、落ち着いた雰囲気の下、盛大かつ上品で楽しく有意義な時間とすることができました。

事務局だより

一般

信友会事務局では、令和七年度も、総会・合同歓送迎会を、会場グランドヒル市ヶ谷において開催するとともに、地区懇親会を東北方地区にて開催し、従来ベースレベルで、全国規模の会のイベントを実施することができました。

また、会員相互の親睦を図るべく、機関紙、名簿、会計、信友会ホームページ(以下「信友会HP」という。)等の各種管理業務に継続して取り組んでいます。

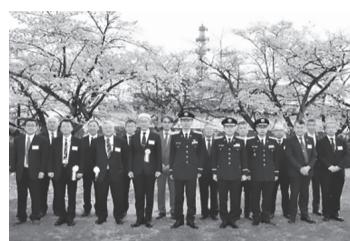
更に、事業の見直しについて検討中のところ、一案を得たため今回の総会で議案として提出する予定です。

二 地区懇親会

令和七年四月十二日(土)、東北方面システム通信群創隊六十五周年記念行事に併せ、仙台駐屯地において東北方面地区懇親会を行いました。当日は下平群長・鳥谷部副群長をお招きし、信友会長以下東北地区の信友会員等十七名の参加を得て、東北方面システム通信群からシステム通信群の活動状況の紹介をいただくとともに、信友会活動報告、会員相互の近況報告、写真撮影等を行いました。その後、東北方面システム通信群祝賀会食に参加し、会員相互の親睦を図り、有意義な地区会を催すことができました。



東北方面隊地区懇親会の状況



東北方面隊地区懇親会集合写真

四 信友会メール及び信友会HP

友会のトピックス、慶弔等に係る情報をタイムリートにお伝えできるよう、信友会メール及び信友会HPでは、最新の記事はもとより、機関誌等のバックナンバーもご覧になれます。これらは、自宅のパソコン、スマートあるいは勤務先のパソコン問わず、登録したID(メールアドレス)と所定のパスワードにより複数の端末にて閲覧が可能です。是非、お試しください。また、信友会メールについても、複数のアドレスに送付できますので、メールアドレスの変更・追加等、信友会事務局(shinyukai@tune.ocn.ne.jp)までメールにてご連絡ください。



○なぜ、事業形態を見直すのか?

これまで、会員の皆様より隔年で2千円の通信等事務費をいただいて信友会事業を運営してきましたが、物価・人件費高騰などの影響もあり、支出が収入をオーバーする状況がここ10年来続き、信友会事業の継続に大きな影響を及ぼしています。收支のバランスをとるには、現時点で従来に比較額(2千円/年)となる通信等事務費をいただく必要がありますが、業者からは用紙代や印刷物の発送にかかる人件費は今後更高的な高騰の可能性がある旨を伝えられており、役員会としては安定した事業の継続が担保できないものと判断しました。また、信友会事業の運営に充てている役員のマンパワーは、各種の事情により年々減少しており、事業継続のためにも役員業務の効率化が喫緊の課題となつていていたことも大きな要因です。

○事業形態を見直すと、集金額はどうなるのか?

クラウドサービスを使用するための導入経費及び維持経費が必要になるものの、印刷・郵送等の経費が一切かからなくなるため、集金額は据え置き(2千円/隔年)で事業の継続が可能と見積もっています。なお、経費は通信等事務(印刷・郵送等)に特化したものではなくなり、会運営全般に充てることとなるため、これまで使用していた科目名「通信等事務費」は「年会費」に変更します。

令和7年叙勲おめでとうございます



瑞宝小綬章 田中 達浩 元通信学校長



瑞宝小綬章 今井 恵治 元通信団副団長



瑞宝小綬章 田辺 利明 元幹部学校主任教官



瑞宝双光章 福丸 竜子 元鹿児島地方協力本部



瑞宝双光章 林 武彦 元中央基地システム通信隊

了時の優秀学生への会長表彰等を行っています。また、現職システム通信科部隊指揮官への着任時に、会長より、信友会の趣旨や活動を紹介するお便り(メール)をお送りし、信友会HPの閲覧に必要な情報も併せて提供する等、信友会の活動に取り組んでいます。

対する現職隊員による理解の輪を広げる施策に取り組んでいます。

これまで会員名簿及び機関紙を郵送によりお届けしていましたが、クラウドシステム※の導入によりペーパーレス化を図ります。

これにより会員名簿及び機関紙は、パソコンあるいはスマートフォンなどから閲覧いただことになります。また信友会事業の運営に関して、会員の皆様のご意見を反映させる枠組みの構築が可能となります。

会員の皆様へのお知らせ

本件については、2月23日の総会において議案として提出する予定としており、その概要を事前に会員の皆様にお知らせするものです。

○信友会の事業形態が変わります

これまで会員名簿及び機関紙を介して各種のデータを管理、提供することができるサービス※クラウドシステム・インターネットを介して各種のデータを管理、提供することができるサービス

信友会新入会員

(R 6.1.2.2 ~ R 7.11.1)

氏名	最終所属	入会年月日	現住所
古川 洋彰	東北方面総監部	R7.1.25	青森県
小山 悟	北海道補給処	R7.2.18	北海道
平野 輝雄	電子作戦隊	R7.3.24	北海道
大鹿 隆浩	第301映像写真中隊	R7.5.19	埼玉県
廣恵 次郎	教育訓練研究本部	R7.8.15	埼玉県

令和6年度信友会会計報告

(R 6.1.1 ~ R 6.12.31) (単位:円)

取入	支出
前年繰越 1,466,896	慶弔費 91,263
入会費(セント) 170,000	郵送等事務費 61,651
通信等事務費(セント) 944,000	印刷費 625,075
通信等事務費(直接口座) 28,000	原稿料 18,810
利子 28	地方交付金 6,795
寄付等 120,434	手数料等 -
計 2,729,358	次年度繰越 1,925,764
	計 2,729,358

以上のとおり報告します。

信友会会計幹事 令和7年1月22日
龟澤秀樹

監査の結果、異常ありません。

信友会監事 令和7年1月22日
秋山賢司
中村靖彦

【会計から連絡】 令和8年度につきましては、2000円の振込票を送付いたします。なお、令和6年度及び7年度いずれも納金されていない会員には、4000円の振込票を送付いたします。処置の程、よろしくお願いいたします。

三 信友会会員増加施策

信友会会員の減少傾向に係る問題認識から、平成二十九年度より、信友会会員増加施策として、システム通信・サイバー学校入校中の幹部課程学 生に対する会長講話、BOC・SLC課程教育終了

六 掲載記事について

掲載記事の内容と執筆者の職名等は、令和七年十一月一日現在のものです。

本件に関してご意見がありましたら、メールもしくは書簡にてご連絡ください。ご意見を提出せずに総会を欠席された場合、議決は役員会に委任されたものとして処置させていただきます。

計報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます
(前号以降、判明時期順。掲載辞退除く)

氏名	逝去年月日	住所
木部 英人	R07.01.17	埼玉県
内木場 康朗	R06.09.26	東京都
関 幾 雄	R06.08.19	神奈川県
熊 谷 猛	R07.06.10	東京都
白 尾 悅	R07.06.11	神奈川県
涌 井 達男	R07.03.24	埼玉県
山 下 淳一	R04.02.24	熊本県
上 杉 公雄	不明	熊本県
今 村 武久	R07.01.17	熊本県
椎 葉 秋 登	R07.01.15	新潟県
竹 内 昭	R04.01.12	東京都
白 川 尚 弘	R07.07.11	千葉県
水 口 二 平	R07.05.01	千葉県